

～日本公庫の外貨貸付を活用して為替リスクを低減～

## アジアのビジネスチャンス獲得のため中国からベトナムに進出



**進出先**  
香港・中国・ベトナム

**香港**  
社名：聚楽隆工業有限公司  
所在地：中国香港特别行政区  
設立：1994年12月

**中国**  
社名：聚楽隆科技(深圳)有限公司  
所在地：中国広東省深圳市  
設立：2011年5月

**ベトナム**  
社名：JURARON INDUSTRIES HAI PHONG CO.,LTD.  
所在地：ベトナム ハイフォン市  
設立：2015年6月



ベトナム現地法人の工場

### 1 海外展開の経緯

#### 90年代から海外進出を開始

当社は創業70年を迎えますが、当初は樹脂成形材料の生産からスタートし、後に冷蔵庫のコンプレッサーや電話交換機の樹脂部品の生産に事業転換しました。1985年のプラザ合意以降、当社は新規事業としてCDピックアップレンズの大手メーカーとの共同開発を開始しましたが、この開発が今日の日本本社売上の7割を占めるプラスチックレンズ事業につながります。

当社の海外展開のきっかけは、大手メーカーの海外進出です。中国華南地区の市場を視察した際、日系OA機器メーカーの集積があり、中国での高精度ギア等のエンブラの発展の可能性は高いと確信しました。しかし、当時はまだ中国本土への投資はリスクが高いと判断し、1994年、香港に進出しました。その後、中国

本土への直接投資が増え、インフラや法制度の整備が進むなど、投資環境が整ったこともあり、2003年に中国(深圳)に委託加工工場として進出。プリンターのプラスチックギアなどの生産を行い、中国での事業基盤を確立しました。

直近では中国で取引している大手OA機器メーカーの要請で2015年ベトナム(ハイフォン)に現地法人を設立し、2016年から生産を開始しています。

### 2 日本公庫のサポート

#### ベトナムへの進出で外貨貸付を活用

ベトナム現地法人の設立には日本公庫の外貨貸付を活用しました。香港に進出した際も日本公庫から資金調達をしたのですが、当時は為替変動が激しい時期で、為替差損が発生するなど、為替リスクの対応にも苦労しました。

### 日本公庫の海外展開・事業再編資金(外貨貸付)



ベトナムでは、米ドルが決済通貨として広く流通しており、ベトナム現地法人への出資は米ドル建てで行いました。そこで、過去の為替リスクの教訓も踏まえ、米ドルで借入し、米ドルで返済することができ、また一括償還型の選択が可能なお外貨貸付を活用することにしました。円での借入と比較して金利はやや高いですが、為替リスクを低減できることから、非常に役立っています。

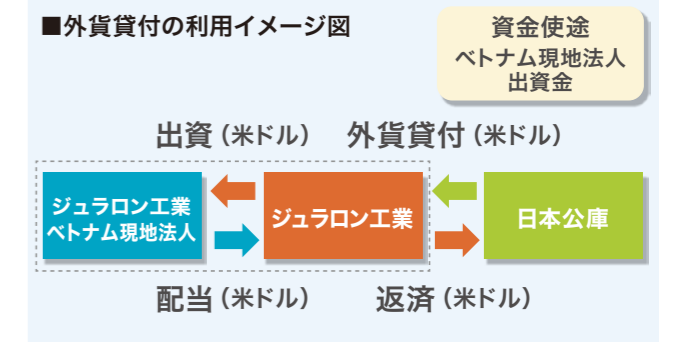
に、将来的には日本本社同様、プラスチックレンズの生産も行い、製品の差別化を図っていきたくと考えています。

中国やベトナムは、ものづくりのレベルが急速に上がってきています。当社は、先の先を読み、価格競争ではなく、付加価値を高め、今後の発展につなげていく方針です。

### 3 これからの事業ビジョン

#### 付加価値を高めてさらなる拡大へ

当社にとっての当面の課題は、ベトナム現地法人の生産を軌道に乗せることです。ベトナムはまだ満足できる金型メーカーが少ないことから、中国から輸出した金型のメンテナンス能力を高めるとも



最新鋭の設備を揃えたベトナム現地法人の工場内部



ベトナムで生産されるOA機器用の様々なギア



#### 社長からのメッセージ ジュラロン工業 株式会社 代表取締役社長 山本進氏



技術を理解して経営者感覚で現地の工場運営ができる日本人材の不足が課題です。マネジメントできる人が現地にいないとせっかくの好機を逃し、成長拡大につなげることが難しいと思います。海外展開のリサーチを始め、石橋をたたきすぎても、進出する機会を逸してしまいます。案ずるより産むが易し、踏み切る勇気も必要かと思えます。最近海外に拠点があるかどうかを発注の基準の一つにされるお取引先もいます。中小企業のグローバル化は重要なキーワードとなっており、当社も思い切った海外展開したメリットは感じています。国内だけでなくアジアの成長も取り込む展開を検討してみるのもよいのではないのでしょうか。